

東与賀

higashiyoka

文責 田中泰司

佐賀市立東与賀中学校

感動！夏の中体連

硬式テニス等これから始まる競技もありますが先月末から今月にかけて夏の中体連大会が実施されました。

各競技共に死力を尽くし、精一杯の頑張りを発揮し、見に来ていた人々に大きな感動を与えたと聞いています。私は軟式野球競技の会長として諸富中学校会場に常駐していました。佐大BCに所属する東与賀中生徒の皆さんの活躍ぶりを目にするのができて、非常に感銘を受けました。そして、普段なかなか見られない姿を見られた嬉しさ、他の競技や中体連以外の様々な場所での活躍しているであろう、他の生徒の皆さんの姿を想像しました。負けて悔いなし！とはなかなか言えませんが、後悔がぬぐい切れない人

は是非、高校でも競技を続けてほしいと思います。続けるか迷い中の人はしっかりと悩んで今後を決めるとよいでしょう。

いずれにしても、競技を続けてこられたのは当り前のことではありません。お世話になった方々への感謝の気持ち忘れずに。特に応援してくれた保護者、一緒に頑張ってきたチームの仲間には最大限の「ありがとう」を伝えてください。これから戦いに臨む人たちは、試合が終わる最後の最後まで諦めず、粘り強く勝利を目指してください。いろいろな場面で頑張っている皆さん全員を心から応援しています。

人類の「進化系」

私が所属している勉強会のセミナーが毎年全国各地で行われ、各地の実践発表を聞いて学んでいます。その年は札幌で開催されました。私は宿泊場所が指定さ

れているとき以外は、ゲストハウスという宿に泊まり宿泊費を節約します。ただ無駄なお金を使わないことが目的かといえれば決してそれだけではなく、同じ宿に集まった人たちとの出会いや交流、ゲストハウスを運営しているスタッフやオーナーとの再会が楽しみだからです。札幌ではフランス人の火山研究者、フーリアンとなぜか気が合い、世界を旅してきた宿のオーナーも交えて一階のカフェ兼バーで遅くまで語り合いました。お互いの国のこと、仕事のこと、そしてこれからのこと：そんな中で、私の耳の話題になりました。その少し前に突然左耳が聞こえなくなった私は、当時生徒の言葉をうまく聞き取れず、これからのことを考えると途方に暮れていました。私の話を聞いていたフーリアンは、「大昔、人類の視力は恐ろしく高かった。それは狩りをしていくからだ。獲物を見つけるために必要だった。今は眼鏡やコンタクトが欠かせないくらい低下している。なぜだかわかるかい？ 必要がないからだ。よ。人類はこれまで環境に応じて進化してきたんだ。君の耳だってそうだ。現代社会は情報にあふれている。聞きたくないものも耳に届く。だから、聞く必要がない言葉を聞かないでいいように体が進化したんだよ。君は人類の進化系だ。」

その言葉を聞いた途端、なんだか肩の力がスッと抜け、これからもきつとどうにかかなる、どうにかできると力が湧き上がってきたのを覚えています。

彼は、フランスの領土である南太平洋のニューカレドニアの首都ヌメア在住で、火山の研究のために札幌に来ていました。前向きで自然体な彼を育んだニューカレドニアはきつと素敵な場所だろう、とその時風が吹いてきたように感じ、いつか必ず訪問しようと思いに決めました。

彼のおかげで自分自身の心のなかでケリがつかしました。そして、言葉が聞き取りにくいことを逆手にとって、授業づくりを一から見直し、生徒の話し合いの過程がわかる新しい形のワークシートを考案しました。出来ないことを嘆くより、前向きに出来ることを見つけよう。私にとって物事の見方や捉え方の劇的な変化をもたらした人生の中での大きな大きな転機でした。

子育て雑感

「なぜ校長先生なったんですか？」よく尋ねられる質問です。会社員だった私が今、校長を務めている：昔の私を知っている人からは「意外」だと言われることもあります。

ふと振り返ると人生の節目で分かれ道があり、選択してきた、もしくはそう進まざるを得なかったように思います。その時々で悩み抜き、納得までいなくても、自分の選択には自分で責任をもとうと生きてきました。

子どもたちが進路で迷ったとき、いろいろあつたとしても、最終的には自分で決めてほしいと私は思っています。できる限り情報を集めて時間をかけて一緒に悩んで：最後には自分自身で決断する。迷いがあっても今決めた答えが自分にとっては「ベスト」なのだと思える。そしてその場所まで一生懸命に頑張る：その積み上げで本当の意味で自信が備わってくるのでしょうか。子どもは「小さな大人」です。一人の人間として対峙し失敗も含めてその意思をできる限り尊重したいものです。そして自分一人の足で人生を逞しく歩くことができる、自立した人になってほしいと心から願っています。

校長室より

昨日は二年生の人権学習の授業を参観し、帰りの会の前に私が話す時間をもらいました。海外で感じた「二つの壁」について話しましたが、将来差別する側にも、される側にもなっていないとありませんし、違いを尊重し、広い視野で豊かに生きてほしいという願いを伝えました。疲れていたにも関わらず真剣に耳を傾けてくれた彼らに感謝します。